

[26_04]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1470234>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 26 (4), 1993-07-26. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：

「苔いっぱい」の相談員」の一言

国宗 真*

今年度も計算機センターの非常勤として、相談員の仕事を続けることとなりました。よろしく、そしてお手柔らかにお願いします。

昨年のこの欄に書きましたが、私は非常勤として福岡女学院大学で「ワープロ実習」と「情報科学」を教えて4年目になります。ワープロ実習では、前期に多言語ワープロソフト Techno-Mateを、後期に OASYS を教えています。学生をうんと鍛えて（苛めて）やろうと考え、レポートも年間 40 本ほど提出させています。レポートは一つチェックし、間違いの多いのは遠慮なくやり直させています。学生を苛めるのも楽ではありません。大変な努力と労力が必要です。選択課目のため初年度は 120名、第2年度は 150名、昨年度は 100名、今年度は 180名と変動が大きく、今年は私のレポートチェックの能力の限界をはるかに越しそうな情勢です。

TechnoMate は欧文として英語のみならず、ドイツ語、フランス語なども編集可能ですし、日本語も併用できるので、その点非常に気に入っています。この大学は入学定員 200名の小さな大学ですが、第2外国語としては、ドイツ語、フランス語のほか、スペイン語や中国語、韓国語も選択できるようになっているので、昨年度からはレポートとして英独仏のほかスペイン語も練習させることにしました。そうなれば、こちららも多少ともスペイン語の勉強をしておかねばと、NHK の教育テレビの語学番組をこの2月から視聴しはじめました。

この語学番組は一コマ 20 分、月～木曜は 7:00 - 8:00 の3コマ、金、土曜は 6:40 - 8:00 の4コマ、週間合計 20 コマとなっていて、英独仏露西伊中韓の8ヶ国語をやっています。（別な時間帯に再放送もあります。）英語だけは初級中級高級の3ランクで週間合計6コマ、他言語は2コマずつになっています。見はじめると、ぼんやり眺めているだけでも、本当に面白く楽しい番組で、全番組を見ることにしました。最初は韓国語と中国語にまで手を伸ばすことは躊躇していました。ロシア文字のように、慣れた文字（日本語の文字や alphabet）でない場合にはそれだけで強い抵抗を感じるものですが、そういう意味でハングル文字には大きな抵抗を感じました。しかし考えてみると、ハングル文字は子音（14字）と母音（10字、合成母音を入れると21字）の合成文字であり、一度覚えてしまえば、読むだけはできそうです。それに日本語と同じ文法構造を持ち、「てにをは」に相当する言葉まで持っている外国語は他にはないでしょう。勉強してみる価値は充分にありそうです。中国語はとびきり魅力のある女性アナウンサーが講師だったので、除外する訳にはいかなくなりました。どちらもお隣の国のことであるし、ヨーロッパの言語だけに偏ることの後ろめたさもありました。これらの番組を5年も10年も前から見ておけばよかったと、そのことを悔やんでいます。

3月からはテキストを全部（11冊になります。）買い揃え、予習も始めました。予習の結果はすべてワープロに打ち込んで保存することにしました。テキストは全部買って3000円位のもです。人の話によると、英会話に中学生が行くとたった1回でも3000円ぐらいかかるそうです。これと比べると週20コマ、月間80コマを越しても3000円とは安いものです。ケチな人間に取ってはこれだけでも大儲けした気分になり、ホクホクです。

たった1コマの20分でも色々工夫されています。ライン川の流れ、パリの町、草木も生えていないスペインの古城などなど、風景も素晴らしい。会話もスタジオだけでなく、町に出掛けて、お年寄りや小さな子供、種々の職業の人、リゾートを楽しんでいる人達をつかまえて同じ質問をしたり、有名な詩人の作った詩の朗読、楽しい歌の紹介などもあります。また才知溢れ、魅

* 福岡女子大学名誉教授。九州大学大型計算機センター研究開発部非常勤。

力溢れるレギュラー出演の女性たちから丁寧に発音を教えて貰います。テレビといっても、まさに個人レッスンを受けている感じになります。コミック風な寸劇もたっぷり見ることができます。

以下のような書き方で理解して頂けるか自信がありませんが、ドイツ語やフランス語では TH の音が t であるのに対し、英語では th の音なので、英語だけが特別かと思っていましたら、スペイン語では C と Z にその音があることを知り、ちょっと愉快になりました。また日本語には b の音があって、v の音がありません。ヨーロッパの言語とはこんなところも違うなと思っていましたが、スペイン語では、文字として B も V もちゃんとあるのに、どちらも b の発音であるのにはびっくりしました。スペイン語で vaca は牛のことですが、馬鹿と発音します。フランス語では h の音が発音されないことはよく知られています。これはフランス語独特のものかと思っていましたら、スペイン語、イタリア語も同様でした。

中国語には四声（第一声、第二声、第三声、第四声、本当はそれに軽声加わります。）といって、音に4種の抑揚（高低）があり、極めて音楽的です。先日杜牧の詩

千里鶯啼緑映紅	千里鶯啼いて緑紅に映ず
水村山郭酒旗風	水村山郭酒旗の風
南朝四百八十寺	南朝四百八十寺
多少楼台煙雨中	多少の楼台煙雨の中

の朗読がありました。（国文の専門家に聞きましたが、この4行で終わる詩を七言絶句と言うそうです。）私たち古い人間は、旧制中学で5年間国語と並んで漢文を習い、漢詩なども、日本流の読み方でいくつも知っており、その読み方のリズムのままでも、漢詩はいいものだなと思っていましたが、中国の正式の読み方が、極めて音楽的で綺麗なのに感動しました。

ロシア語の時間でも、ロシア民謡がよく歌われたりします。またプーシキン（Пушкин）の詩の朗読があったりして、意味はわからなくても、詩の持つ美しさを感じます。それぞれの言語が、他の言語とは違った独特の美しさを持つものであると考えはじめています。

数字の読みにも興味があります。とくに10進数的な読みとの関係に興味があります。日本語は徹底した10進数の読みです。（恐らくこれは中国の真似をしたものでしょう。）少し書き並べてみます。（表中？のマークがありますが、初心者の悲しさ、今のところ分かっておりません。計算機と違って、語学入門書は1から上しか教えて呉れません。？の少ないことを褒めて頂きたいと思っております。）

0	zero	zero	zéro	cero	?
1	eins	one	en	uno	uno
2	zwei	two	deux	dós	due
3	drei	three	trois	tres	tre
4	vier	four	quatre	cuatro	quattro
5	fünf	five	cinq	cinco	cinque
6	sechs	six	six	seis	sei
7	sieben	seven	sept	siete	sette
8	acht	eight	huit	ocho	otto
9	neun	nine	neuf	nueve	nove
10	zehn	ten	dix	diez	dieci
11	elf	eleven	onze	once	undici
12	zwölf	twelve	douze	doce	dodici

13	dreizehn	thirteen	treize	trece	tredici
14	vierzehn	fourteen	quatorze	catorce	quattordici
15	fünfzehn	fifteen	quinze	quince	quindici
16	sechzehn	sixteen	seize	dieciséis	sedici
17	siebzehn	seventeen	dix-sept	diecisiete	diciassette
18	achzehn	eighteen	dix-huit	dieciocho	diciotto
19	neunzehn	nineteen	dix-neuf	diecinueve	diciannove
20	zwanzig	twenty	vingt	veinte	venti
21	einundzwanzig	twentyone	vingt et un	veinteuno	ventiuno
22	zweiundzwanzig	twentytwo	vingt-deux	veintedós	ventidue
30	dreißig	thirty	trente	treinta	trenta
40	vierzig	fourty	quarante	cuarenta	quaranta
50	fünfzig	fifty	cinquante	cincuenta	cinquanta
60	sechzig	sixty	soixante	sesenta	sessanta
70	siebzig	seventy	soixante-dix	setenta	settanta
80	achzig	eighty	quatre-vingts	ochenta	ottanta
90	neunzig	ninety	quatre-vingt -dix	noventa	novanta
100	hundert	hundred	cent	ciento	cento
1000	tausend	thousand	mille	mil	mille
10E6	million	million	million	millón	?

わざとどこの国語か書いておりません。フランス語、スペイン語、イタリア語はよく似ています。スペイン語、イタリア語は特によく似ています。同時に習いはじめたので、区別して覚えるのが大変です。どこかの国では数字を呼ぶのに、60+10、4×20+10のように算数の掛け算し算の教育までやっています。20を束にして数えていた時代があったのでしょうか。ついでに9も4×2+1とでも教えてやった方がさらに教育的かも知れません。1の位と2の位を逆に呼ぶ国もあります。この調子では、日本人と比べて、足し算引き算の暗算が苦手なもの当然でしょう。

イタリア語ではすべての単語が、語尾変化の場合も含めて、母音で終わっています。この点日本語と同じです。他の西欧人より日本人の方が、イタリア語の発音が自然だと言われることもあるそうです。（日本語の場合は「ん」で終わる場合があります。しかし、日本語の「ん」は英語などのnとは違っております。いくつかの例外（観音、天皇）を除いて、漢音、感恩、三愛など、後の母音と結びつくことがありません。私は日本語の「ん」は母音だと思っております。）

日本における語学教育の大きな欠陥をそのまま受け継ぎ、会話はいくらも出来そうにありません。1年経つころには、会話のテキストをかなりスムーズに読むことぐらいは出来るようになると思っています。

話は変わりますが、このような眼鏡をぜひ開発して欲しいという注文。（共鳴者募集中）

私は40才になる前に老眼となり、眼鏡を使用しました。普段は裸眼のまま、読書のときに限って眼鏡を使用しました。掛けたり外したりするのはかなり面倒なことでした。若い健康な人の場合、目は非常に精巧にできており、近くを見るときも遠いところを見るときにも、たちどころにその距離にピントを合わせることができます。（自動焦点）。歳を取るにつれ、この調節作用

が駄目になって来ます。これが老眼で、極端なことを言えば、物体との距離に応じて幾つもの眼鏡が必要になります。(私の場合は裸眼を含めて4個、天眼鏡を含めると5個)。

かなり後になって分かったことですが、私は本来遠視だったようです。若いときは優秀精巧な自動調節作用のため、遠視に気がつかなくて済んだので、老眼が早く出たのも、この遠視の性だったようです。(このような人は意外に多いのではないのでしょうか。)

その内(正確な名前は知りませんが、)2重焦点眼鏡を使用しはじめました。全体は遠視の眼鏡(これで中間および遠方を見ます。)、下の一部に小さな半円形の部分を作り、そこが老眼用で、本を読むときはその部分を利用します。読書の場合、見る部分はかなり極限されているので、この小さな部分で十分です。

仕事の関係で端末機やパソコンを一日に5時間も10時間も見ることになります。このときに、2重焦点眼鏡を使用することは絶対にできません。ディスプレイ画面を見るときは、読書の場合と違って、かなり広範囲をみる必要があるからです。(ディスプレイ画面などの存在しなかった時代には、何十頁もつながったラインプリンタ用紙でプログラムのデバッグをしょっちゅうやっていたのですが、このときも、2重焦点眼鏡はだめでした。)これを使用すると2種のレンズの境界も視野に入ることとなり、生理的に耐えがたい状況となります。ディスプレイ画面の場合は眺める距離も読書の時より遠方になります。それにあった度数の眼鏡を用意する必要があります。

しかし、この眼鏡を用意したからといって十分とは言えません。ワープロ機能を利用して、原稿作成、テキスト作成する場合など、交互に原稿を見たり、画面を見たりする必要があります。視距離の違いのため、そのたびに眼鏡を掛け換えねばならないこともよくあります。とくに原稿の文字が小さかったり、辞書を頻繁に使用したりするときは天眼鏡まで必要となります。

このすべての場合に適応できる眼鏡を開発し、売り出して欲しいと願っています。それも早いほど好いわけで、1-2年内にも実現して欲しいと願っております。

技術的には問題はないはずですが、数万円で購入できる小型のカメラで実現されているからです。極めて小型のカメラで、シャッターを押し始めてから、押し終わるまでの極めて短時間の間に、対象の明るさを読み取って、シャッター時間を決定し、必要に応じてフラッシュを働かせもします。また対象までの距離を読み取ってピントをあわせませす。またズーム装置を使って、対象を小さく写したり、画面一杯に写したりすることができます。このようなカメラは、私が購入してからでも6年もたっています。この技術を眼鏡に適用して欲しいのです。最初は眼鏡が装置として重くなったり、大きくなったりするのはやむを得ないでしょう。それにしてもそれほど大きくなるとも思われませす。スキーや水泳で用いるゴーグル程度か、場合によってはバイクに乗るときのヘルメットぐらいになるかも知れませす。それでも私は喜んで使用します。

現在近視、遠視、老眼の眼鏡はそれぞれ違っており、おなじ老眼でも人によって度数が違っています。しかしこの新しい装置はすべての人に共通の装置で済むのではないのでしょうか。購入時に初期設定を変更するだけで済むように私には思われます。右眼と左眼の度がかなり違う人も珍しくありません。(私の家内もそうです。)このときも左右の初期設定を変えるだけで利用できるのでないのでしょうか。眼鏡を必要とする人は日本だけで数千万人いるはずですが、世界では数十億でしょう。私も含めて高齢者が驚異的に増えつつある現在、どれだけ多くの人が恩恵をこうむるか計り知られませす。

NHKの語学教室の宣伝と眼鏡のことに終始しました。計算機に直接関係することは皆無で、苔の部分だけの記述になりました。悪しからず。しかし、私にとって眼鏡と計算機との間には重大で密接な関係があります。